

被相續人ハ法律ノ許ス範圍内ニ於テハ相續ニ關シ自由ニ遺言ヲ爲スノ權アリ而シテ人ノ將ニ死セントスル其言ヤ善シト云ヘル謬ノ如ク遺言ハ各國ノ法律ニ於テ最モ神聖ナル法律行爲トセリ而シテ經濟上ヨリ論スルモ被相續人カ自由ニ遺言ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ生前艱苦ヲ忍テ貯蓄ヲ爲スコト稀ナリトセス故ニ遺言ノ自由ヲ重スルハ文明國ノ通則ナリ然ルニ相續人カ被相續人ノ己ニ不利益ナル遺言ヲ爲スコトヲ恐レ詐欺又ハ強迫ニ因リテ之ヲ妨ケ又ハ遺言ハ生前自由ニ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトシ一一二四乃至一一二八以テ遺言ノ自由ノ實ヲ舉ケントシタルニ被相續人カ相續人ニ利益アル遺言ヲ取消サントスルニ當リ相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ之ヲ妨ケ又ハ自己ニ利益ナル遺言ヲ變更セントスルニ當リ之ヲ妨ケタル者ハ啻ニ遺言ノ自由ヲ害スルノミナラス不法行爲ニ因リテ自己カ當然受クヘキ利益以外ノ利益ヲ強取セント謀リタルモノニシテ其所爲最モ惡ムヘク若シ之ヲ假借スルトキハ不法行爲者ノ爲メニ公益ニ關スル相續ノ規定ヲ蹂躪セラルルニ至ルモノト謂フモ可ナルカ故ニ本號ニ於テハ之ヲ制裁ゼン

カ爲メ特ニ其相續權ヲ褫奪セリ

第四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者

本號ハ前號ト同一ノ精神ニ出テタルモノニシテ詐欺又ハ強迫ニ因リ相續人ニ利益アル遺言ヲ爲サシメ又ハ之ニ不利ナル遺言ヲ取消サシメ若クハ變更セシメタル者ノ相續權ヲ褫奪スルモノナリ其理由全ク前號ニ同シキカ故ニ再ヒ贅セス第五 相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ偽造變造毀滅又ハ藏匿シタル者本號モ亦略前二號ト同一ノ理由ニ據レルモノナリ即チ相續人カ當然受クヘキ利益ヨリ多クノ利益ヲ占得センカ爲メ貴重スヘキ遺言書ヲ偽造變造毀滅藏匿シタル者ニシテ其所爲前二號ノ所爲ニ酷似シ其目的モ亦之ニ同シク其惡ムヘキ程度モ亦敢テ前二號ノ者ニ讓ラス故ニ之ニ同一ノ制裁ヲ附シタルモノナリ

一一 家督相續人ノ順位

民法ニ於テ家督相續人ノ種類五ヲ認メタリ(第一)法定ノ推定家督相續人即チ家ニ

在ル直系卑屬是ナリ(九七〇乃至九七八)(第二。指定。家督。相續。人。即チ被相續人カ家督相續人トシテ指定シタル者九七九乃至九八一第三。第一種。選定。家督。相續。人。即チ法定ノ推定家督相續人及ヒ指定家督相續人ナキ場合ニ於テ父母若クハ親族會カ家族中ヨリ選定シタル者(九八二、九八三)(第四。尊屬。家督。相續。人。即チ家ニ在ル直系尊屬(九八四)(第五。第二。種。選定。家督。相續。人。即チ前四種ノ者ナキトキ親族會ニ於テ選定シタル者是ナリ(九八五)

第九百七十條 被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ

家督相續人ト爲ル

- 一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
- 二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
- 三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス
- 四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做ス(取二九五、一項、六年一月二十二日告二八號、同年七月二十二日告二六三號)

本條ハ法定ノ推定家督相續人ノ順位ヲ定メタルモノナリ蓋シ法定ノ推定家督相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルコトハ既ニ述ヘタルカ如シト雖モ家ニ數人ノ直系卑屬アルコト最モ多キカ故ニ其中ニ就キ何人カ相續スヘキカヲ定メサルコトヲ得ス夫レ財產ハ之ヲ數人ニ分ツコトヲ得ルカ故ニ遺產相續ニ在リテハ數人同時ニ相續ヲ爲スコト多シト雖モ(九九四乃至九九六家督ハ則チ戸主權ニ

シテ之ヲ分割スルコト能ハス故ニ其相續人必ス一人タルコトヲ要ス唯家督相續ノ結果前戸主ノ財産悉ク一人ニ歸スヘキモノトスヘキカ將タ之ヲ他ノ者ニ分ツヘキカハ自ラ別問題ニ屬スルト雖モ後ニ説明スルカ如ク民法ニ於テハ之ヲ一人ニ歸セシメタリ九八六故ニ一家ニ直系卑屬數人アル場合ニ於テハ其何人カ相續ヲ爲スヘキカヲ定メサルコトヲ得ス而シテ本條第一項ニ定ムル所左ノ如シ第一親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

是レ古來各國ノ法律大抵認ムル所ニシテ分割相續ヲ認ムル國ニ在リテモ亦同シ但第九百七十四條ノ規定アルカ故ニ本號ノ規定ヘ絶對ノ規定ニ非ス而シテ是レ皆我邦ノ舊慣ニ於テモ同シキ所ナリ即チ子ハ孫ヨリ先ニ相續シ孫ハ曾孫ヨリ先ニ相續スルノ類是ナリ

第二親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

是レ亦我邦ノ舊慣ニ仍レルモノニシテ徳川政府ノ下ニ在リテハ武家ニ於テヘ一切女子ノ相續ヲ認メス歐洲ニ於テモ古ハ此制アリシト雖モ近來王位繼承ノ外ニ

ハ此制ヲ取ル者ナキカ如シ我邦ニ於テハ維新後一般ニ女子ノ相續權ヲ認ムルニ拘ハラス若シ男子アルトキハ先ツ之ヲシテ相續ヲ爲サシメタルコト固ヨリナリ本號ヘ則チ此慣習ニ仍レルモノナリ

第三親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

是レ亦舊慣ニ仍レルモノニシテ庶子ヨリ嫡出子ヲ先ニスルハ固ヨリ當然ナリ唯前號ノ規定アルカ故ニ庶子タル男子ト嫡出ノ女子トアル場合ニ於テハ庶子ト雖モ男子先ツ相續權ヲ有スヘシ是レ亦舊慣ニ仍レルモノナリ

第四親等ノ同シキ嫡出子庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス

本號ノ規定ハ前戸主カ女戸主ナル場合ニ於テノミ其適用ヲ見ルヘシ蓋シ嫡出以外ノ子ト雖モ父カ之ヲ認知スルトキハ直チニ庶子ト爲ルカ故ニ法律上男子ノ子ニ私生子ナルモノアルヘカス故ニ男子ノ子ニハ嫡出子ト庶子トノ二種ノミアリテ前二號ノ規定ニ依リ其相續權ノ先後ヲ定ムヘキモノトス之ニ反シテ母ノミ認

知シタル私生子ハ單ニ之ヲ私生子ト謂ヒ庶子ト之ヲ分ツカ故ニ茲ニ本號ノ規定
ノ必要ヲ生シタルナリ而シテ假令父カ之ヲ認知スルモ母ヨリ見ルトキハ依然私
生子ナルコト既ニ前卷ニ論シタルカ如シ(四卷二五七頁)然リ而シテ本號ニ庶子ヲ
列舉スルハ聊カ怪シムヘキニ似タリト雖モ是レ嫡母ヨリ見タル庶子ニシテ其實
子ニ非ス實ハ其夫ノ庶子ナリ此場合ニ於テ是ト自己ノ實子ナル私生子トノ間ニ
相續ノ順位ヲ定メサルコトヲ得ス而シテ本號ノ規定ハ從來ノ慣習ニ依レルモノ
ナリ蓋シ嫡出子ノ私生子ニ先ツヘキコトハ固ヨリ論フ矣タス唯庶子ト私生子ト
ノ間ニ於テ歐洲ノ主義ヨリ之ヲ云ヘハ私生子先ツ相續權ヲ有スヘキコト勿論ナ
ルカ如ク又人情ヨリ論スルモ或ハ之ヲ可トスヘキカ如シト雖モ而モ我邦ノ慣習
ニ於テハ男尊女卑ノ結果男子カ婚姻以外ニ於テ子ヲ舉クルコトハ曾テ法律ヲ以
テ之ヲ許シ庶子ハ嫡出子ニ次イテ相續權ナ有スルモノトセリト雖モ女子カ婚姻
外ニ於テ子ヲ舉クルカ如キハ殆ト法律ノ認メサル所ニシテ固ヨリ男子カ舉ケタ
ル庶子ト同日ノ論ニ非ス故ニ相續權ニ付テモ私生子ヨリ庶子ヲ先ニスルハ我慣

習ニ從ヒタルモノナリ

或ハ曰ハシ家ニ嫡出子又ハ庶子アレハ其者カ父ニ相續スヘキコト勿論ニシテ其
前ニ母カ相續スル場合アラサルカ如シト曰ク然ラス(第一)入夫婚姻ノ場合ニ於テ
女戸主カ依然戸主タル場合ニ於テハ其入夫トノ間ニ生レタル嫡出子及ヒ入夫カ
他ノ女子トノ間ニ舉ケタル庶子ニシテ其家ニ在ル者アルヘシ但此場合ニ於テハ
或ハ女戸主ノ私生子ヲシテ入夫ノ庶子ヨリ先ニ相續權ヲ有セシムルヲ可トスヘ
キカ如シト雖モ是レ自ラ立法論ニ亘ルヲ以テ茲ニ詳論セス

(第二)嫡出子又ハ庶子カ前條ノ規定ニ依リ父ニ相續スルコト能ハス又ハ父ノ爲メ
ニ廢除セラレ(九七五乃至九七八)又ハ隠居ヲ爲シタルトキ(七五二乃至七五五)又ハ
父ノ相續開始ノ場合ニ於テ他家ニ在リタル嫡出子若クハ庶子カ其後離婚若クハ
離縁ニ因リテ復歸シ(七三九)或ハ第七百三十七條、第七百三十八條ノ規定ニ依リテ
家ニ入り或ハ父ノ隠居ノ後私生子ヲ認知シテ庶子ト爲シタルトキヘ(七三三、一項、
七三五、一項、八三二)皆本號ノ適用アルヘシ

同シク男子間若クハ女子間ニ在リテ嫡出子ヲ先ニスヘキコトハ既ニ前號ニ明カナリ而シテ庶子ト私生子トノ間ニ於テモ其同シク男子若クハ女子ナル場合ニ於テハ庶子ヲ先ニスヘキコト略論ヲ俟タサルカ如シト雖モ本號ノ規定ニ依レハ假令嫡出子又ハ庶子ハ女ニシテ私生子ハ男ナル場合ト雖モ尙ホ嫡出子、庶子ヲ先ニセリ是レ特ニ本號ノ規定ヲ俟テ始メテ明カナル所ナリ

第五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付ギ。相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

本號ノ規定ハ固ヨリ當然ナル所ニシテ殆ト規定ヲ俟タサルカ如シ是レ我邦ノ慣習ニ於テ疑ナキノミナラス(古代ノ法ハ必スシモ然ラサルカ如キモ)西洋ニ於テモ長子相續ノ慣習久シク行ハレ今日尙ホ其迹ヲ留ムルモノアリ殊ニ王位繼承ノ順位ニ在リテハ大抵皆長子相續ノ主義ヲ取レリ(皇室典範二、三、八參觀)

第八百三十六條ノ規定ニ依レハ庶子ハ父母ノ婚姻ニ因リ嫡出子ノ身分ヲ取得スヘク又第八百六十條ノ規定ニ依レハ養子ハ養子縁組ニ因リテ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得スヘキモノトセリ故ニ他ニ特別ノ規定ナクシハ總テ之ニ右ノ五號ノ

規定ヲ適用スヘク從テ此等ノ者カ嫡出子タル身分ヲ取得スル前ニ生マレタル嫡出子アルモ其年齢之ヨリ少キトキハ之ヲ超エテ家督相續ヲ爲スヘキカ如シ然リト雖モ是レ營ニ慣習ニ反スルノミナラス理論ニ於テモ嫡出子タル身分ヘ年少者却テ先ニ之ヲ取得シタルカ故ニ後ニ生シタル事實ニ由リ其既得權ヲ奪ハルヘキ理ナシ故ニ本條第二項ニ於テ庶子ノ嫡出子ト爲リタル者及ヒ養子ハ「家督相續ニ付テハ嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做」セリ

或曰ハシ「法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス」(八三九)又假令例外トシテ女婿ト爲ス爲メニシタル養子ト雖モ第九百七十三條ニ依レハ法定ノ推定家督相續人ハ其相續權ヲ害セラルルコトナシ若シ然ラハ養子ニ付テハ本條第二項ノ規定ナキモ實子ヲ超エテ相續スヘキ者ハ唯其實子ノ出生前ニ養子ト爲リタル者ニ限レルカ如シ然ラハ本條第二項ノ規定ハ養子ニ付テハ全ク其必要ナキカ如シト曰ク然ラス實子カ他家ニ在ル場合ニ於テ家ニ推定家督相續人タル男子ナキ爲メ養子ヲ爲シタリトセんニ其後他家ニ在リタル實子カ

離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ニ復歸シタルトキハ假令其者カ養子ヨリ年少ナルモ
養子ヲ超エテ相續スヘシ

第九百七十一條 前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス
(七三六、人二五八、六年一月二十二日告二一八號、同年七月二十二日
告二六三號)

前條ノ規定ハ戸主ノ死亡、隠居等ニ因リテ相續ノ開始シタル場合ニ於テハ適當ナル規定ナリト雖モ唯リ女戸主ノ入夫婚姻ニ因リテ相續ノ開始シタル場合ニ於テハ入夫ヲ以テ戸主ト爲目的ニテ婚姻ヲ爲シタルモノナルカ故ニ(七三六)假令戸主ニ家ニ在ル直系卑屬アルモ先ツ入夫ニ於テ相續ヲ爲スヘキコト固ヨリ當然ナリ是レ本條ニ於テ前條ノ例外ヲ認ムル所以ナリ

或ヘ曰ハシ本條ノ規定ニ依レハ女戸主ニ直系卑屬アルトキハ其相續權ハ母ノ入夫婚姻ニ因リテ害セラルルモノノ如シ是レ豈ニ不當ナラスヤト曰ク然ラス女戸主ノ子ハ入夫ノ爲メニハ繼子ナルカ故ニ假令入夫婚姻ノ後夫婦ノ間ニ子ヲ舉ク

ルモ入夫婚姻前ノ子ハ之ニ對シテ兄又ハ姉ナルカ故ニ前條ノ規定ニ依リ同等ノ子ナランニハ必ス年長者タル繼子カ入夫ノ後ヲ繼クヘシ故ニ入夫婚姻ニ因リテ其權利ヲ害セラレタリト謂フコトヲ得ス(前條一項四號ノ説明ヲ參觀セヨ)

第九百七十二條 第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限り第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒチ

家督相續人ト爲ル

本條ニ定メタル者ハ當然家ニ在ルヘカラザル者ニシテ第七百三十七條又ハ第七百三十八條ノ規定ニ依リ家ニ入りタル者ナルカ故ニ假令其者カ第九百七十條ノ規定ニ依リテ相續人タルヘキ場合ト雖モ若シ他ニ當然其家ニ屬スル直系卑屬アルトキハ他家ヨリ入りタル者カ之ニ超エテ相續ヲ爲スハ人爲ニ由リテ天然ノ相續權ヲ左右スルモノト謂フヘク頗ル穩當ヲ缺クカ故ニ本條ニ於テハ他ヨリ入り

タル直系卑屬ハ家ニ直系卑屬ナキ場合ニ限り相續權ヲ有スルモノトセリ
本條ニ於テハ家ニ嫡出子又ハ庶子タル直系卑屬ナキ場合ニ限り他家ヨリ入りタル者カ相續ヲ爲スヘキコトヲ言ヘリ即チ假令家ニ私生子アルモ之ヲ顧ミルコトヲ要セサルモノトセリ故ニ他家ヨリ入りタル直系卑屬カ嫡出子又ハ庶子ナルトキハ家ニ在ル私生子ヲ超エテ相續ヲ爲スヘク又他家ヨリ入りタル直系卑屬モ亦私生子ナルトキハ前條ノ規定ニ依リ男ハ女ヨリ先ニシ年長者ハ年少者ヨリ先ニスヘキモノトセリ蓋シ私生子ハ必スシモ何レノ家ニ屬スヘキモノト曰ヒ難キヲ以テ其間ニ在リテハ一切ノ區別ヲ爲ササリシモノナラン(九七〇、一項四號ノ説明ヲ參觀セヨ)

本條ノ規定ニ依レハ第七百三十七條又ハ第七百三十八條ニ依リテ他家ノ者カ家族ト爲リタル當時ニ於テ他ニ嫡出子又ハ庶子タル直系卑屬ナキモ他家ヨリ入りタル者カ必ス相續權ヲ有スヘキニ非ス相續開始ノ時ニ當リテ若シ其家ニ生マレタル嫡出子若クハ庶子アルトキハ假令其出生ノ前ニ他家ヨリ入りタル直系卑屬

アルモ尙ホ其者ハ相續權ヲ有セサルヘシ

本條ノ規定ハ分家ノ場合ニ於テモ其適用アルヘキコト固ヨリナリ即チ分家ノ戸主カ本家ノ戸主ノ同意ヲ得テ本家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ分家ニ入レタル時ニ於テモ若シ分家ニ於テ生マレタル嫡出子若クハ庶子アルトキハ本家ヨリ來リタル者ハ之ヲ超エテ相續ヲ爲スコトヲ得ス是レ或ハ立法上批難スヘキモノアルヘキカ立法上ヨリ論スレハ或ハ分家ノ場合ニ於テハ分家ノ戸主ノ直系卑屬ハ原則トシテ當然分家ニ屬スヘキモノトスルヲ妥當トスヘキカ若シ此ノ如クスルトキハ右ニ述ヘタルカ如キ不當ノ結果ヲ生スルコトナカルヘシ

第九百七十三條 法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル
養子縁組ニ因リテ其相續權ヲ害セラルルコトナシ

本條ノ規定ハ養子縁組ニ由リテ當然相續權ヲ有スヘキ者ノ權利ヲ害スヘカラサルモノトスルニ在リ此事タル既ニ第九百七十條第二項ノ規定ニ由リ幾分カ其目的ヲ達シタリト雖モ未タ以テ足レリトセス蓋シ第九百七十條第二項ヘ單ニ養子

ハ養子縁組ノ時ニ生マレタル嫡出子ノ身分ヲ有スヘキモノニシテ從テ其以前ニ生マレタル嫡出子アルトキハ實子カ女ニシテ養子カ男ナル場合ヲ除ク外常ニ實子カ相續ヲ爲スヘキコトヲ定メタルニ過キス然ルニ養子ノ中ニハ既ニ法定ノ推定家督相續人アルニ拘ハラス養子トシテ其家ニ入ル者アリ此者ヘ敢テ家督相續ヲ目的トシタル者ニ非サルカ故ニ假令第九百七十條ニ依レハ相續權ヲ有スヘキ場合ニ於テモ尙ホ相續權ヲ有セサルコト多カルヘシ例へハ女子一人アル者カ婿養子トシテ又ハ婿養子トセスシテ男子ヲ養子ト爲ストキハ第九百七十條ニ依リ養子カ相續ヲ爲スヘキコト固ヨリナリ而シテ是レ女子數人アル場合ニ於テ其長女ノ婿養子トシテ又ハ何レノ女子ノ婿養子トモセスシテ養子ヲ爲シタルトキ亦同シキ所ナリ然リト雖モ若シ女子二人アル場合ニ於テ次女ノ婿トシテ養子ヲ爲ストキハ直チニ婚姻ヲ爲スト(婿養子直チニ婚姻ヲ爲ササルトニ拘ハラス長女ハ之カ爲メニ其相續權ヲ害セラルルコトナカルヘシ然ラスンハ殆ト長女ノ相續權ハ次女ニ依テ害セラルルト同一ノ結果ヲ生スレハナリ故ニ民法施行前ノ法律ニ

於テモ此場合ニ於テハ先ツ長女ヲ廢嫡シタル後ニ非サレハ其養子カ相續權ヲ得ルコト能ハサルモノトセリ從テ右ノ養子ヲ爲シタル後實子ノ男子カ生マレタルトキハ其男子ハ長女ニ先チテ相續ヲ爲スヘキ者ナルカ故ニ其長女ヨリモ下位ニ在ル養子ヲ超エテ相續ヲ爲スヘキコト固ヨリナリ又例へハ男子一人、女子一人アル場合ニ於テ女子ノ婿トシテ養子ヲ爲シタル後(八三九參觀)次男カ出生シタル場合ニ於テ相續開始前ニ長男カ死亡シタルトキハ相續ヲ爲スヘキ者ハ養子ニ非スシテ次男ナルコト亦殆ト疑ヲ容レス又例へハ女子二人アル場合ニ於テ先ツ次女ノ婿トシテ一人ノ養子ヲ爲シタル後更ニ長女ノ婿トシテ一人ノ養子ヲ爲シタリトセンニ長女ト其夫トノ間ニ於テハ必ス夫相續權ヲ有スヘキコトハ女戸主カ婚姻ヲ爲ス場合ノ外入夫ナル者ヲ認メサルニ因リテ明カナリ(七三六八〇七二項、九六四、三號等參觀而シテ次女ノ婿ハ相續ニ關シ長女ヨリモ下位ニ在ル者ナルカ故ニ此場合ニ於テハ長女ノ婿相續權ヲ有スヘキコト亦蓋シ疑ヲ容レス是レ本條ノ規定スル所ナリ但本條ノ文字ヘ聊カ明瞭ヲ缺ク點ナキニ非サルヲ以テ或ハ世人

ノ疑問ヲ招クコトナシトセサレトモ本條ノ真意ハ此ノ如クナリト信ス
本條ノ文字ニ依レハ養子縁組ノ當時既ニ法定ノ推定家督相續人アル場合ニ限り
本條ヲ適用スヘキモノノ如シ而シテ其意義タル第八百三十九條但書ノ場合ニ於
テ女婿ト爲ス爲メニスル養子ヘ相續權ニ於テ法定ノ推定家督相續人タル男子ニ
及ハサルコトヲ規定スルニ在リタルカ如シ然リト雖モ若シ此ノ如ク解スルトキ
ハ本條ヘ殆ト無用ノ冗文ト謂ハサルコトヲ得ス何トナレハ既ニ第九百七十條第
二項ノ規定ニ依リ養子ヘ養子縁組ノ日ニ生マレタルモノト看做サルルカ故ニ右
ノ規定ニ依リテ女婿ヘ假令年長者ナルモ法定ノ推定家督相續人タル男子ニ先チ
テ相續ヲ爲スコトヲ得サルコト最モ明瞭ナレハナリ故ニ本條ノ意義ニシテ養子
縁組ノ當時現ニ存スル法定ノ推定家督相續人ノ權利ノミヲ保護スル目的ニ出テ
タリトセハ唯女子二人以上アル場合ニ於テ其一人ノ婿ト爲ス爲メニ爲シタル養
子カ他ノ者ノ相續權ヲ害セサルコトヲ定メタルニ過キスト謂ハサルコトヲ得ス
然レトモ(第二)此ノ如キ意味ナランニハ本條ノ如ク迂遠ナル文字ヲ用フルコトナ

カルヘシ殊ニ女子二人以上アル場合ニ於テ法定ノ推定家督相續人ハ長女ナル
ヘキカ故ニ其妹ノ爲メニスル養子縁組ト云ヘハ則チ可ナリト雖モ其姉妹ノ爲メ
ニスル縁組トヘ頗ル了解シ難キ所ナリ強ヒテ之ヲ説明セハ姉カ廢除セラレタル
後之ニ其婿養子ヲ爲シタル場合ニ於テ其適用ヲ見ルヘキカ今假ニ此解釋ヲ取ル
トスルモ養子縁組ノ後生マレタル男子ハ一切ノ女子ニ先チテ相續權ヲ有スルカ
故ニ其女子ノ一人ニ對シ下位ニ在ル養子カ其上位ニ在ル實子ヲ超エテ相續ヲ爲
スヘキ謂レナシ而シテ此場合ニ於テ養子縁組ヨリ後ニ生マレタル實子ノ男子ニ
相續權ヲ認ムルモノトセハ前ニ列舉シタル一切ノ場合ニ於テ同様ノ解釋ヲ取ラ
サルコトヲ得サルハ殆ト明白ナリト謂ハサルコトヲ得サルナリ

第九百七十四條 第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ

依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ
又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルト

キハ其直系卑屬ハ第九百七十條及ヒ第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル(取二

九五、二項)

本條ノ規定ハ歐洲ニ於テ之ヲ代位相續ト稱スルモノニシテ(représentation, Erbfolge nach Stämme)我邦ニ於テモ古來嫡孫承祖ト稱スルモノ即チ是ナリ其意タル第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リ家督相續ヲ爲スヘキ順位ニ在ル者カ死亡シ其他廢除(九七五乃至九七八)本家相續(七四四、一項)離籍(七四四、二項、七五〇、二項又ハ缺格(九六九)ニ因リ其相續權ヲ失ヒタルトキハ假令其者ニ弟妹等アルモ若シ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬中第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リ相續權ヲ有スヘキ者相續ヲ爲スヘシ蓋シ死亡者又ハ失權者カ相續ヲ爲シタルトキハ其直系卑屬カ相續ヲ爲スヘキ當然ノ順序ニ在リタルニ偶然ノ事實ニ因リテ忽チ其相續權ヲ失ヒ其叔父母等カ相續ヲ爲シ竟ニ家督ハ永ク其者ノ子孫ニ

屬スヘキモノトスルハ甚タ其當ヲ得サレハナリ尙ホ外國ニ於テハ失權ノ場合ヲ區別シ缺格ノ場合ノ如キハ敢テ嫡孫承祖ヲ許ササルモノナキニ非スト雖モ舊民法取二九五、二項ハ此主義ヲ執レリ父ノ罪ノ結果ヲ子カ負擔スヘキ謂レナキカ故ニ新民法ニ於テハ敢テ此區別ヲ爲サス

第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトナ得

スルコトナ得

一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱

シ加ヘタルコト

二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪

ヘサルヘキコト

三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタ

ルコト

四 浪費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得(取二九六、二九七、二九八、一項、六年一月二十二日告二八號、同年七月二十二日告二六三號、十二年

二月十三日太政官達八號)

本條ハ相續人ノ廢除(exhéredation, Entferbung)ヲ爲スコトヲ得ル場合及ヒ其手續ヲ定メタルモノナリ先づ新民法ニ於テハ推定家督相續人ノ權利ハ未タ之ヲ既得權ト看做サスト雖モ妄ニ之ヲ左右スルコト能ハサルモノトシ一ハ以テ相續人ノ權利ヲ保護シ一ハ以テ家系ノ紊亂ヲ防カント欲シタルモノナリ故ニ其手續ハ最モ之ヲ鄭重ニシテ必ス被相續人ヨリ裁判所ニ請求スヘキモノトセリ尙ホ裁判所ニ於テモ正當ノ事由アルニ非サレハ其廢除ヲ許スヘカラサルモノトシ茲ニ五ノ場合

ヲ定メタリ

第一 推定家督相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

本號ハ所謂不孝ノ罪ヲ糺シタルモノニシテ自己ノ父祖ニ對シ大不敬ヲ加ヘ而モ其死亡等ノ場合ニ於テハ其財產ヲ取得スルコトヲ許スハ甚タ倫理ニ悖リ風教ニ害アルカ故ニ此ノ如キ相續人ハ之ヲ廢除スルコトヲ得ルモノトセリ

第二 推定家督相續人カ疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘザルヘキトキ

從來ノ慣習ニ於テモ癡篤疾ノ者ハ之ヲ廢除スルコトヲ得タリ然レトモ癡篤疾ノ文字ハ聊カ不完全タルヲ免レス(第一)如何ナル程度ノ疾病カ即チ癡篤疾ト稱スヘキモノナルカ頗ル明瞭ヲ缺ク嫌アリ(第二)疾病ニ非スシテ癡篤疾ニ均シキモノアリ即チ傷痍ニ因リ又ハ天性ノ不具ニ因リ身體ノ自由ヲ有セサル者又ヘ性來自痴ナル者等ハ癡篤疾者ニ同シク自ラ家政ヲ執ルコト能ハサル者ナリ故ニ此等ノ者

モ亦癱篤疾者ト同一視セサルコトヲ得ス是レ本號ニ於テ疾病等ノ程度ハ家政ヲ
孰ルニ堪ヘサルヲ必要トシ尙ホ疾病以外ニ於テ身體又ハ精神ノ状況ニ因リ家政
ヲ執ルニ堪ヘサル場合ヲモ包含セシメタリ

第三 推定家督相續人カ家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタル
トキ

家督相續ノ目的タル素ト家名ヲ維持シ家產ヲ保有スルニ在リ然ルニ相續人カ家
名ヲ汚スヘキ所爲ヲ行フニ因リテ刑ニ處セラレタルトキハ此ノ如キ者ヘ到底家
名ヲ維持スルニ足ラサル者ト認メサルコトヲ得ス是レ本號ノ必要アル所以ナリ
但家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪トハ如何ナルモノヲ謂フカ是レ事實問題ニシテ時
勢ノ變遷ニ因リ漸次變更スヘキ事項ナリト雖モ要スルニ所謂破廉耻罪ノ如キハ
大抵此中ニ包含スヘキモノトス(八一三、四號參觀尙ホ大赦ノ後ハ之ニ據リテ廢除
ヲ爲スコトヲ得サルハ固ヨリナリ)

第四 推定家督相續人カ浪費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキトキ

前項ニ述フルカ如ク家督相續ノ目的ハ家名ノ維持ト家產ノ保有トニ在ルカ故ニ
若シ相續人ニシテ到底家產ヲ保有スルノ見込ナキトキハ之ヲ廢除セサルコトヲ
得ス而シテ浪費者ハ竟ニ家產ヲ蕩盡スルニ至ル者多キカ故ニ之ヲ廢除スヘキ場
合亦多カルヘシ然リト雖モ年少者ヘ一時浪費ヲ爲スコト稀ナリトセサルモ或ハ
相當ノ年齢ニ達シタル後或ハ父兄ノ訓戒ニ因リ自ラ改悛スルコト鮮シトセス故
ニ浪費者ハ皆悉ク之ヲ廢除スルコトヲ得ルモノト爲スコトヲ得ス本號ニ於テハ
浪費者ニシテ既ニ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ且改悛ノ望ナキコトヲ要スルモノトセ
リ而シテ改悛ノ望アルト否トハ固ヨリ事實問題ニシテ畢竟裁判所ノ認定ニ一任
スルノ外ナシト雖モ法律ノ趣意ヨリ之ヲ言ヘハ或ハ其者ノ性質ニ因リ或ハ浪費
ノ慣習久シキニ瘤リ既ニ痼疾ト爲リタル者ハ以テ改悛ノ望ナキモノト爲スヘキ
カ尙ホ準禁治產ノ宣告ヲ必要トシタルハ他ナシ浪費ノ程度稍甚シクシテ保佐人
ヲ附スル必要アリト認ムルニ非サレハ敢テ準禁治產ノ宣告ヲ爲スヘカラサルカ
故ニ是ニ因リテ浪費ノ程度ヲ推知スルコトヲ得ヘケレハナリ

第五。親族會ニ於テ廢除ノ正當ノ事由アリト認メタルトキ
 是レ最モ概括的ニシテ如何ナル場合ヲモ包含スルコトヲ得ヘシト雖モ其一例ヲ
 示セハ家貧困ニシテ戸主カ其子ニ必要ナル教育ヲ與フルコト能ハサルニ當リ他
 家ヨリ其子ヲ養子ト爲サント欲スル場合ニ於テ其子カ推定家督相續人ナルトキ
 ハ之ヲ廢除シタル後ニ非サレハ他家ノ養子ト爲スコトヲ得サルニ因リ特ニ親族
 會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スル場合ノ如キ即チ是ナリ而シテ本號ノ場合ニ於
 テハ事由最モ概括的ナルカ故ニ被相續人ヨリ直接ニ裁判所ニ請求スルコトヲ許
 サス必ス先ツ親族會ノ同意ヲ得ヘキモノトセリ尙ホ事由ノ正當ナルヤ否ヤハ裁
 判所ノ認定ニ依ルヘキコト勿論ナリ

第九百七十六條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢
 除スル意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力
 ヲ生シタル後遲滞ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要

ス此場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力
 ヲ生ス(取二九八、一項)

本條ハ遺言ニ因ル廢除ニ付テ規定セリ蓋シ相續人ノ廢除ノ如キハ相續開始ノ時
 ニ當テ始メテ必要ナル事項ナルカ故ニ生前豫メ之ヲ爲サシテ被相續人カ將ニ
 死亡セントスルニ當リ始メテ廢除ヲ爲サント欲スルコトアリ而モ裁判所ニ請求
 スルコトヲ要スルカ故ニ既ニ其請求ヲ爲スノ暇ナク又ハ大患ニシテ生前其手續
 ヲ爲スコト能ハサル場合鮮カラサルヘシ殊ニ被相續人カ相續人ノ廢除ヲ爲スハ
 多クハ萬已ムコトヲ得サルニ出ツルモノニシテ假令廢除ノ原因アル者ト雖モ數
 歲月ノ後其缺點消滅スルコト稀ナリトセス故ニ被相續人カ死ニ垂トシ相續ノ將
 ニ開始セントスルニ當リ始メテ廢除ノ必要ヲ感スルコトアリ此場合ニ於テハ遺
 言ヲ以テスルニ非サレハ廢除ヲ爲スコト能ハサルコト合鮮カラサルヘシ故ニ本
 條ニ於テハ遺言ヲ以テ廢除ノ意思ヲ表示スルコトヲ許セリ
 然リト雖モ新民法ニ於テハ相續人ノ廢除ハ必ス裁判所ニ請求スヘキモノニシテ

判決ヲ俟テ始メテ廢除ノ效力ヲ生スヘキモノトスルコト能ハス故ニ本條ニ於テハ單ニ以テ直チニ廢除ノ效力ヲ生スヘキモノトスルコト能ハス故ニ本條ニ於テハ單ニ被相續人ニ許スニ遺言ナ以テ廢除ノ意思ヲ表示スルコトヲ以テセリ而シテ遺言ナルモノハ後ニ説明スヘキ力如ク何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ルモノニシテ(一一二四乃至一二二八)遺言カ效力ヲ生スルハ被相續人ノ死亡ノ時ニ在ルヲ本則トスルカ故ニ(一〇八七)被相續人死亡ノ後遺言執行者ニ於テ遲滯ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スヘキモノトセリ(一一〇八、一一一二)

遺言執行者カ廢除ノ請求ヲ爲スヘキハ通常被相續人死亡ノ後短期日內ニ於テスヘシト雖モ遺言カ停止條件附ナルトキハ其條件成就ノ時ヨリ遲滯ナク其請求ヲ爲スヘキモノトス(一〇八七例)ヘ嫡出ノ遺腹ノ子アリテ他ニ一ノ庶子アリトセシニ若シ遺腹ノ子ニシテ健全ニ生マルルトキハ其子カ相續ヲ爲スヘキコト固ヨリナリト雖モ若シ其子カ死亡シテ生マレタルトキハ庶子カ相續ヲ爲スヘキモ若シ其者ニ廢除ノ理由アルトキハ被相續人ハ胎兒カ死體ニテ生マルルヲ條件トシ

テ其庶子ノ廢除ナ遺言スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ遺言執行者ハ胎兒ノ生マルルマテ廢除ノ請求ヲ爲サスシテ若シ胎兒ニシテ健全ニ生マレシカ固ヨリ廢除ノ請求ヲ爲ス必要ナク若シ胎兒ニシテ死體ニテ生マルルトキハ茲ニ始メテ廢除ノ請求ヲ爲スヘシ是レ本條ニ於テ特ニ遺言カ效力ヲ生シタル後云云ト云ヘル所以ナリ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所カ廢除ノ宣告ヲ爲スハ常ニ相續開始ノ後ナルカ故ニ若シ廢除ニシテ裁判確定ノ日ヨリ始メテ其效力ヲ生スヘキモノトセハ相續開始ノ時ニ於テ廢除セラルヘキ相續人ハ一旦正當ニ相續ナ爲シ廢除ノ裁判確定ノ後其資格ヲ失フヘキモノノ如シ然リト雖モ若シ此ノ如クスルトキハ相續人力相續開始ノ後廢除ノ確定判決ヲ受クルマテ被相續人ノ一切ノ權利義務ヲ承繼スルコトトナリ其間ニ錯雜セル關係ヲ惹起シ或ハ回復スヘカラサル損害ヲ生スルコトアルヘシ而シテ廢除ノ目的タル素ト其者ヲシテ相續ヲ爲サシメサルニ在ルカ故ニ若シ裁判所カ廢除ノ宣告ナ爲シタルトキハ其宣告ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡

リテ其效力ヲ生スヘキモノトセザルコトヲ得ス是レ本條末段ニ規定スル所ナリ尙ホ此場合ニ於ケル戸主權及ヒ財產ノ處分ニ付テハ第九百七十八條ニ必要ナル規定ヲ設ケタリ

第九百七十七條 推定家督相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百七十五條第一項第一號ノ場合ニ於テハ被相續人ハ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ適用セス

前條ノ規定ハ廢除ノ取消ニ之ヲ準用ス(取二九八、二項、三項)
本條ハ廢除ノ取消ニ關スルモノナリ蓋シ廢除ノ原因ハ往往ニシテ消滅スルコトアリ例へハ相續人カ疾病ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘヌ又ハ浪費者トシテ準禁治產

ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナシトシテ廢除セラレタル者後日病平癒シ又ハ改悛ノ實ヲ舉ク若クヘ準禁治產ノ取消アリタルトキハ廢除ノ原因消滅スルカ故ニ速ニ廢除ヲ取消シテ其相續權ヲ回復スヘキコト固ヨリ當然ト謂ハサルコトヲ得ス故ニ本條第一項ニ於テハ被相續人又ハ推定家督相續人ヨリ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトセリ其推定家督相續人ニ此權利ヲ認メタル所以ハ其法定ノ相續權ヲ重シタルナリ又之ヲ裁判所ニ請求スヘキモノトシタルハ事重大ニ屬シ初ニ廢除ヲ爲スニ當リテモ裁判所ノ判決ヲ必要トシタルカ故ニ之ヲ取消スニモ亦裁判所ノ判決ヲ必要トシ以テ濫ニ廢除ヲ請求シ又濫ニ之ヲ取消スノ弊ヲ矯メント欲シタルナリ殊ニ推定家督相續人カ其請求ヲ爲ス場合ニ於テハ多クハ被相續人カ廢除ノ取消ヲ爲シ肯セサル場合ナルカ故ニ果シテ廢除ノ原因止ミタルヤ否ヤニ付キ争アルモノト謂フヘク從テ裁判所ノ判決ヲ俟ツヘキハ固ヨリ當然ナリト謂ハサルコトヲ得ス

廢除ノ原因中第九百七十五條第三號ニ掲ケタルモノノ如ク一旦生シタル以上ハ

再ヒ消滅スルコトナキモノアリ(但大赦ノ場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ)同條第一項第一號ノ場合モ亦然リ然リト雖モ第一號ニ掲ケタルモノハ主トシテ被相續人ニ對スル罪惡ニシテ若シ被相續人ニ於テ之ヲ宥恕シ其相續權ヲ回復ゼンコトヲ欲スルトキハ之ヲ許サルコトヲ得ス蓋シ此等ノ事タル或ハ一時ノ感情ニ因リテ發スルコトアリ從テ後日大ニ悔悟スルコト稀ナリトセス他ノ一方ニ於テハ假令第九百七十五條第一項第一號ノ缺點アルモ他ニ適當ノ相續人ナキトキハ寧ロ之ヲシテ相續ヲ爲サシメ以テ血統ノ繼續ヲ計ラント欲スルコトアルヘシ故ニ本條第二項ニ於テハ被相續人ヲシテ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得セシメタリ而シテ此場合ニ於テハ相續人ヨリ其請求ヲ爲スコトヲ得サルハ固ヨリ言フヲ俟タサル所ナリ蓋シ自己カ虐待ヲ爲シ、侮辱ヲ加ヘタル事實ハ到底之ヲ滅却スルコト能ヘサレハナリ相續人廢除ノ取消ハ相續開始ノ後ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトセリ是レ他ナシ相續人ノ地位ハ相續開始ノ時ニ定マルヘキモノナルカ故ニ相續開始ノ當時甲

カ廢除セラレタルトキハ必ス乙カ其相續ヲ爲スヘキコトト爲ルヘシ然ルニ後日ニ至リ甲ノ廢除ヲ取消シ以テ乙ノ權利ヲ害スルカ如キハ其當ヲ得サルモノニシテ本條第三項ノ許ササル所ナリ

廢除ノ取消モ亦遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許セリ是レ廢除ノ遺言ヲ許シタルト同様ノ理由ニ據リタルモノニシテ固ヨリ至當ト謂ハサルコトヲ得ス而シテ此場合ニ於テモ遺言其物カ直チニ廢除取消ノ效力ヲ生スルニ非スシテ遺言執行人ヨリ之ヲ裁判所ニ請求スヘキモノトス尙ホ裁判所ニ於テ廢除取消ノ宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生スヘシ

第九百七十八條 推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ開始シタルトキハ裁判所ハ親族、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ戸主權ノ行使及ヒ遺產ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得廢除ノ遺言

アリタルトキ亦同シ

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至
第二十九條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ相續人廢除ノ請求又ハ其取消ノ請求アリタル後未タ裁判確定ニ至ラサル前相續カ開始シタル場合ニ付テ規定セリ此場合ニ於テハ普通ノ理論ヨリ之ヲ言ヘハ相續人ノ地位ハ相續開始ノ時ニ定マルヘキカ故ニ相續人ノ廢除ナルモノ法律上其效力ヲ生セサル中相續カ開始シタルトキハ相續開始ノ當時未タ廢除ナルモノアラサルカ故ニ其廢除セラレントシタル相續人ハ正當ノ相續人ニシテ直チニ相續ヲ爲スヘク又廢除ノ取消ハ同シク裁判ノ確定ニ因リテ其效力ヲ生スヘキカ故ニ相續開始ノ當時ハ其相續人ハ廢除セラレタルモノニシテ相續權ナク從テ其次順位ニ在ル者直チニ相續ヲ爲スヘキカ如シ而シテ此場合ニ於テハ訴訟ハ其目的ヲ失フヘキカ故ニ復之ヲ繼續スルノ必要ナキカ如シ然リト雖モ此ノ如キハ

法律カ相續人ノ廢除及ヒ其廢除ノ取消ヲ認メタル趣旨ニ反スルモノナルカ故ニ本條ニ於テハ其訴訟ヲ繼續シ若シ裁判所カ廢除ノ原因アリトスルトキハ次順位ノ者相續ヲ爲スヘク又取消ノ原因アリトスルトキハ其相續人相續ヲ爲スヘシ而シテ其裁判確定ニ至ルマテハ何人カ相續人タルヘキカ不確定ナルカ故ニ戸主權ヲ行ヒ且財產ノ管理ヲ爲スヘキ者確定セス爲ミニ利害關係人ニ損害ヲ來ス虞ナシトセス故ニ本條ニ於テハ裁判所ヘ親族利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得ルモノトセリ是レ略不在者ノ財產ニ關スルト同一ノ規定ヲ爲シタルモノナリ(二五、一項)但茲ニ親族ヲ加ヘ親族ヘ假令利害ノ關係ナキモ右ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ是レ他ナシ親族ヘ直接ニ利害ノ關係ヲ有セサルモ家名ヲ重シ又ハ自己ノ親族ノ利益ヲ重スル情ヨリシテ此請求ヲ爲スコトアルヘク而シテ是レ正當ノ人情ナルカ故ニ裁判所ハ其請求ニ因リテモ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ(人事訴訟手續法ニハ本條ノ場合ニ關スル規定ヲ缺ケルカ如シ)

本條ニ定メタル處分ハ概シテ不在者ノ財産ニ關スル處分ト其趣ヲ同ウスルカ故ニ不在者ノ財産ニ付キ管理人ヲ選任スヘキ場合最モ多キカ如ク本條ノ場合ニ於テモ亦管理人ヲ選任スヘキ場合最モ多カルヘシ而シテ其管理人ノ職務、權限其他ノ權利義務ニ付テハ不在者ノ財産ノ管理人ト異ナリタル規定ヲ設タル理由ナキカ故ニ本條第二項ニ於テハ單ニ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用セリ以上ハ相續人廢除ノ訴又ハ廢除取消ノ訴アリタル後裁判確定前ニ相續カ開始シタル場合ニ付テ論シタリト雖モ遺言ニ因ル廢除ノ場合ノ如キヘ其訴ハ必ス相續開始ノ後ニ之ヲ提起スヘキカ故ニ此場合ニ於テモ亦右ト同一ノ處分ヲ必要トスヘシ而シテ此場合ニ於テハ必スシモ訴ヲ提起スルヲ竝タス苟モ廢除ノ遺言アリタルトキハ直チニ右ノ處分ヲ請求スルコトヲ得ヘシ例ヘバ遺言カ條件附ナル場合ニ於テハ廢除ノ訴ヘ條件成就ノ後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得スト雖モ本條ニ定メタル處分ハ其以前ニ於テモ亦必要アルヘキカ故ニ此場合ニ於テハ非訟事件トシテ本條ノ處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ但非訟事件手續法第

六十六條ノ規定ハ聊カ缺點アルヲ免レサルカ如シ同條ニハ「訴ヲ受ケタル裁判所」トアルモ未タ訴ノ提起アラサル以前ニ在リテハ寧ロ「訴ヲ受クヘキ裁判所」ト謂ヘサルヘカラス

本條ニ於テハ廢除ノ取消ノ遺言アリタル場合ノ事ヲ言ハス是レ蓋シ此場合ニ於テハ相續開始ノ當時正當ノ相續人アリテ其者カ戸主權ヲ行使シ遺產ヲ管理スヘキヲ以テナランカ但立法論トシテヘ此場合ニモ本條ノ規定ヲ適用スルヲ可トスヘキカ

第九百七十九條 法定ノ推定家督相續人ナキトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルユトヲ得此指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ其效力ヲ失家督相續人ノ指定ハ之ヲ取消スユトヲ得

前二項ノ規定ハ死亡又ハ隠居ニ因ル家督相續ノ場合ニノミ

之ヲ適用ス(取二九九、三〇〇、六年一月二十二日告二八號、同年七月二十二日告二六三號)

本條以下第九百八十一條ニ至ルマテハ指定相續人ニ關スルモノナリ本條ノ規定ニ依レハ法定ノ推定家督相續人ナキトキハ被相續人カ指定シタル者家督相續ヲ爲スヘシ蓋シ法定ノ推定家督相續人ハ其親族關係及ヒ家族關係ニ於テ相續ヲ爲スヘキ當然ノ位置ニ在ル者トシ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ廢除スルコトヲ許サスト雖モ若シ法定ノ推定家督相續人ナキトキ即チ初ヨリ之ナキトキ又ハ法定ノ推定家督相續人カ死亡シ、廢除セラレ、離籍セラレ又ハ其資格ヲ缺クニ至リ又ハ本家ノ相續ヲ爲シタルトキハ既ニ法律上當然相續ヲ爲スヘキ者アラサルカ故ニ戸主カ自己ノ權利ヲ繼承スヘキ者ヲ選定スルハ固ヨリ、穩當ト謂ハサルコトヲ得ス故ニ我邦ノ慣習ニ於テモ之ヲ認メ又外國ニ於テモ多ク之ヲ認メタリ被相續人カ相續人ヲ指定スルハ死亡又ハ隠居ノ場合ノ爲メニスルハ則チ可ナリト雖モ其他ノ原因ニ由リテ相續カ開始スヘキ場合ニ於テハ敢テ此權利ヲ被相續

人ニ認ムルコトヲ得ス即チ國籍喪失者カ豫メ其相續人ヲ定メ置クカ如キハ其當ヲ得ス何トナレハ其者ハ日本ノ國籍及ヒ戸籍ヲ重セサル者ナルカ故ニ自己ハ日本ノ國籍ヲ脱シ仍ホ日本ニ於ケル家ヲ思ヒテ其適當ナル相續人ヲ定ムルカ如キコトアルヘカラス又假令自己ノ意思ニ因リテ國籍ヲ失フ者ニ非ストスルモ此場合ニ於テハ國籍喪失ヲ豫想セサルヘキカ故ニ其場合ノ爲メニ相續人ヲ指定スルコトアルヘカラス又女戸主ノ入夫婚姻ニ因リテ相續ノ開始スルハ他ナシ此場合ニ於テハ入夫カ戸主ト爲ルヘキヲ以テナリ故ニ女戸主カ入夫以外ノ相續人ヲ指定スルノ餘地ナキコトハ固ヨリ疑フ容レス。其他戸主ノ婚姻又ハ養子縁組ノ取消又ハ入夫ノ離婚ノ場合ノ如キハ其相續人ヲ指定スルコトヲ得サルハ固ヨリ言フヲ俟タサル所ナリ

相續人ノ指定ヘ遺言ヲ以テスルコト最モ多カルヘシ唯我邦ニハ隠居ノ制アルカ故ニ必スシモ遺言ヲ以テスヘキモノト爲スコトヲ得ス然リト雖モ其性質頗ル遺言ニ類スルモノアルカ故ニ何時ニテモ遺言ヲ取消シ得ルト同シク相續人ノ指定

モ亦之ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ

被相續人カ相續人ヲ指定シタル當時ニ在リテハ法定ノ推定家督相續人アラサリシモ後法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキ即チ被相續人カ子ヲ舉ケタル場合ニ於テハ相續人ノ指定ハ其效力ヲ失フヘシ蓋シ指定相續人ハ法定ノ推定家督相續人ナキ場合ニ限り相續權ヲ有スル者ナルカ故ニ假令其指定ノ當時ニハ之アラサリシモ相續開始ノ時ニ於テ推定家督相續人アルトキハ其權利ヲ奪フコトヲ得ス是レ或ハ舊慣ニ異ナル所ナキニ非サルヘキモ一旦推定家督相續人ノ權利ヲ認メタル以上ハ勢ヒ此ノ如ク規定セサルコトヲ得ス尙ほ民法施行前ノ慣習ニ於テモ大抵之ヲ認メタルカ如シ唯華族ニ付テ例外ヲ見タルノミ

被相續人カ家督相續人ヲ指定シタル後法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルモ其者カ後日死亡シ若クハ其相續權ヲ失ヒタルトキヘ前ノ指定カ其效力ヲ回復スヘキヤ否ヤ曰ク否本條第一項ノ規定ニ依レハ其指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルト同時ニ其效力ヲ失フヘキカ故ニ若シ被相續人ノ意思ニシテ變更

セサレハ更ニ同一人ヲ指定セサルコトヲ得ス是レ固ヨリ至當ト謂ハサルコトヲ得ス

被相續人カ相續人ヲ指定シタル當時ニ在リテハ法定ノ推定家督相續人アリタリト雖モ相續開始ノ時ニハ其者死亡シ又ハ相續權ヲ失ヒタルトキハ相續人ノ指定ハ果シテ有效ナルヤ否ヤ舊法典ニ於テハ之ヲ有效トセリト雖モ新民法ニ於テハ是レ無效ナリト謂ハサルコトヲ得ス蓋シ指定ノ當時ニ在リテ法律上ノ條件ヲ缺クルカ故ニ其行爲ハ初ヨリ成立セサルモノト得ス若シ被相續人ニシテ其意思ヲ變更スルコトナキトキハ更ニ同一人ヲ指定セサルコトヲ得ス但初ヨリ條件附ニテ相續人ヲ指定シ若シ法定ノ推定家督相續人カ死亡シ若クハ其相續權ヲ失ヒタルトキハ其者カ相續ヲ爲スヘキモノト定ムルハ固ヨリ妨ナシ蓋シ條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ニ於テ其效力ヲ生スヘキカ故ニ其時ニ在リテハ法定ノ推定家督相續人ナク其行爲自ラ適法ナレハナリ而シテ此ノ如キ指定ハ時トシテ頗ル必要ナルコトアルヘシ例へハ被相續人及ヒ法定ノ推定家督相

續人共ニ死ニ垂トスルニ當リ若シ被相續人先ツ死亡スルトキハ推定家督相續人相續ヲ爲スヘク若シ推定家督相續人先ツ死亡スルトキハ他ニ推定家督相續人ナケレハ次順位ノ相續人相續ヲ爲スヘキモ被相續人之ヲ欲セサルトキハ特ニ相續人ヲ指定セント欲スルコトアルヘシ而モ推定家督相續人ノ死亡ヲ俟ツドキハ爾後ノ疾病重大ニ陷リ竟ニ遺言ヲ爲スノ暇ナキコトナシトセス故ニ豫メ條件附ニテ遺言ヲ爲スノ必要アルヘシ尙ホ被相續人カ推定家督相續人ノ廢除ヲ請求セル場合ニ於テハ豫メ條件附ニテ相續人ヲ指定シ若シ廢除ノ請求採用セラルルトキハ其者ヲシテ相續ヲ爲サシメント欲スルコトアルヘシ

第九百八十條 家督相續人ノ指定及ヒ其取消ハ之ヲ戸籍吏ニ

届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス(取三〇〇、六年一月二十二日)

告二八號、十二年二月十三日太政官達八號)

本條ハ相續人ノ指定及ヒ其取消ノ方法ヲ定メ併セテ其成立ノ時期ヲ定メタルモノ

ノナリ既ニ言ヘルカ如ク相續人ノ指定ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコト多カルヘク從テ其取消モ亦遺言ノ取消ヲ以テスルコト多カルヘシト雖モ而モ隠居ノ場合ノ如キハ此方法ヲ取ルコト能ヘス殊ニ相續人ノ指定及ヒ其取消ハ戸籍ニ重大ナル關係ヲ及ホスヘキモノニシテ利害關係人ノ權利義務ニ關係スル所亦大ナルカ故ニ特ニ之ヲ戸籍吏ニ届出テシムルコトセリ而シテ之ヲ以テ法律上ノ條件ト爲スカ故ニ相續人ノ指定及ヒ其取消ハ届出ノ時ニ成立スルモノトス是レ隠居(七五七婚姻(七七五)離婚(八一〇)養子縁組(八四七離縁(八六四等ニ關シ新民法カ採用セル所ノ主義ニ合ヘルモノナリ

第九百八十一條 被相續人カ遺言ヲ以テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テ指定又ハ其取消ハ被相續人ノ死亡ノ時

ニ遡リテ其效力ヲ生ス(取三〇〇、六年一月二十二日告二八號、十二年二月十三日太政官達八號)

本條ヘ被相續人力遺言ヲ以テ家督相續人ヲ指定シ又ハ其指定ヲ取消シタル場合ニ付テ規定セリ蓋シ前條ニ於テ一旦届出ヲ相續人ノ指定及ヒ其取消ノ成立條件トシタル以上ヘ遺言ヲ以テ直チニ其效力ヲ生スルモノト爲スコトヲ得サルモ遺言ナルモノハ遺言者ノ死亡ノ後ニ其效力ヲ生スヘキカ故ニ一〇八七被相續人自ラ其届出ヲ爲スコトヲ得ス故ニ遺言執行者ナシテ其届出ヲ爲サシムルコトトセリ而シテ遺言執行者カ遺言ノ效力ヲ生シタル後條件附遺言ニ在リテハ條件成就ノ後遲滯ナク右ノ届出ヲ爲スヘキコト、指定又ハ其取消カ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ效力ヲ生スヘキコト等ハ總テ第九百七十六條ノ場合ニ同シ故ニ再ヒ茲ニ賛セス

第九百八十二條 法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ

其家ニ被相續人ノ父アルトキハ父、父アヲサルトキ又ハ父カ
其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアヲサル
トキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會ハ左
ノ順序ニ從セ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一 配偶者但家女ナルトキ

第二 兄弟

第三 姉妹

第四 第一號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬(取三〇一、三〇一、三〇四)

本條ハ第一種ノ選定家督相續人ニ付テ規定セリ此種ノ相續人ヘ法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合又ハ指定家督相續人カ拋棄ヲ爲シタル場合ニ於テ始メテ其

相續權ヲ有スル者ナリ而シテ其選定ヲ爲スハ家ニ被相續人ノ父アレハ父父アラサルカ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニ有ラサルカ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會是ナリ尙ホ第七百七十二條ノ説明ヲ參觀セヨ

此種ノ選定家督相續人ハ選定者ニ於テ自由ニ其選定ヲ爲スコトヲ得ス

第一次ニ於テ家女ナル配偶者ヲ選ハサルコトヲ得ス即チ被相續人カ養子ニシテ家女ヲ以テ之ニ配シタル場合ニ於テ其家女ヲ遺シテ死亡シタルトキハ先ツ之ヲ選定スヘキモノトス

第二次ニ於テハ兄弟中ヨリ之ヲ選定スヘシ但兄弟間ニ在リテハ誰ヲ選定スルモ選定者ノ隨意ナリ

第三次ニ於テハ姉妹ノ中ヨリ之ヲ選定スヘシ而シテ姉妹間ニ於テ誰ヲ選定スルモ自由ナルコトハ猶ホ兄弟ニ於ケルコトシ

第四次ニ於テハ家女ナラサル配偶者ヲ選定スヘシ即チ他家ヨリ娶リタル配偶者

カ生存スルトキハ其者ヲ選定セサルヘカラス

第五次ニ於テハ兄弟姉妹ノ直系卑屬中適當ノ者ヲ選定スヘシ而シテ此等ノ者ノ間ニ在リテハ長ヲ立ツルモ幼ヲ立ツルモ子ヲ立ツルモ孫ヲ立ツルモ男ヲ立ツルモ女ヲ立ツルモ總テ選定者ノ隨意ナリ

以上ハ從來ノ慣習ニ於テ確然一定セシ所アラサリシカ如キモ我邦ノ實際ノ慣習ヲ參酌シ且人情ト便宜トヲ考ヘ本條ノ如ク規定セシナリ殊ニ次條ノ規定アルカ爲メ本條ノ規定ハ選定者ニ對シ不當ノ束縛タルカ如キ嫌ナカルヘシ本條ニ列舉シタル者ハ必ス被相續人ノ家族タルコトヲ要ス是レ專ラ我邦ノ慣習ニ依レルモノナリ

第九百八十三條 家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ掲ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲ササルコトヲ得(取三〇二)

本條ノ規定ハ前條ノ規定ニ對シ適當ナル變更ヲ加フルコトヲ許セルモノナリ蓋

シ前條ニ掲ケタル者ハ直系卑屬ノ如ク法律上當然相續權ヲ有スル者ト爲スヘカラス唯父母、親族會等ニ於テ愛憎其他ノ事情ニ依リ不當ノ選定ヲ爲ス虞アルカ故ニ法律ヲ以テ一定ノ標準ヲ示シタルモノナリ然リト雖モ要ヘ適當ナル相續人ヲ得ルニ在リ故ニ若シ前條ノ規定ニ從ヒ相續スヘキ順位ニ在ル者ト雖モ其者カ正ニ不適當ナルカ又ハ其者ヨリ一層適當ナル者アルトキハ寧ロ彼ヲ棄テテ此ヲ立ツルヲ利アリトス蓋シ法定ノ推定家督相續人ト雖モ重大ナル事由アルトキハ其廢除ヲ許スニ非スヤ然ラハ前條ニ掲ケタル者ニ付テ類似ノ規定ヲ要スルハ固ヨリ異論アルヘカラサル所ナリ唯右ニ述ヘタル弊害ヲ矯ムル爲メ裁判所ニ於テ正當ノ事由ヲ證明シ其許可ヲ得タル上ニ非サレハ前條ノ順序ヲ變更シ又ハ前條ニ掲ケタル者アルニ拘ハラス他ノ者ヲ以テ相續人ト爲スコトヲ許ササルナリ

第九百八十四條 第九百八十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ナ先ニ

ス(取三〇三、六年一月二十二日告二八號)

本條ハ直系尊屬ノ相續權ニ付テ規定セリ從來ノ慣習ニ於テモ已ムヲ得サル場合ニ於テヘ隠居ノ再相續ヲ許セリ而シテ新民法ニ於テハ法定指定及ヒ第一種ノ選定相續人アラサル場合ニ於テ始メテ此種ノ相續人ヲ認メタリ蓋シ隠居ノ再相續ハ常理ニ反スルモノナルカ故ニ萬已ムヲ得サル場合ニノミ之ヲ認ムルハ蓋シ日本ノ慣習ノ精神ニ適スルモノト謂フヘシ

本條ノ適用アルヘキハ全ク第九百八十二條ニ掲ケタル者ナキカ又ハ是アルモ其相續權ヲ失ヒタルカ又ハ相續ヲ拋棄シタルカ又ハ前條ノ規定ニ依リ之カ選定ヲ爲ササル場合是ナリ

以上余ハ隠居再相續ノ場合ノミニ付テ論シタリト雖モ本條ノ適用ハ必スシモ此場合ノミニ限ラス或ハ直系尊屬カ其父ニ對シ相續權ヲ失ヒタル時モ亦本條中ニ包含セルモノトス蓋シ此場合ニ於テハ其者カ相續權ヲ失ヒタルハ單ニ其父ニ對シテノミナルカ故ニ其子ニ對シテハ本條ノ順位ニ於テ相續權ヲ有スルコト固ヨ

リ疑フ容レス尙ホ稀有ノ場合ヲ論スレハ戸主カ他家ニ在リシ自己ノ直系尊屬ヲ
家族ト爲シタル場合モ亦本條ノ中ニ包含セラルヘシ而シテ此場合ニ於テハ往往
從來家ニ在リシ直系尊屬モ仍ホ生存スルコトナシトセス然ルトキハ其孰レカ相
續ヲ爲スヘキカ是レ本條ニ明定セスト雖モ從來ノ慣習ニ從ヒ初ヨリ其家ニ在リ
シ者相續ヲ爲スヘキコト蓋シ疑ヲ容レス而シテ法律カ此等ノ場合ヲ規定セサル
ハ敢テ之ヲ遺忘シタルニ非ス此等ノ稀有ノ場合ヲ想像スルトキハ殆ト際限ナク
且規定スルニ忍ヒサルカ如キ場合ヲモ想像セサルヘカラサルヲ以テ姑ク之ヲ默
黙ニ付シタルノミ

家ニ直系尊屬數名アルトキハ其中ニ就キ親等ノ最モ近キ者即チ父ハ祖父ニ先チ
祖父ハ曾祖父ニ先テテ相續ヲ爲スヘシ又親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先
ニスヘキモノトセリ是レ蓋シ慣習ニモ適シ且逆行相續ヲシテ力メテ其程度ヲ小
ナラシムルヲ穩當トスルヲ以テナリ

第九百八十五條 前條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキ

トキハ親族會ハ被相續人ノ親族、家族、分家ノ戸主又ハ本家若ク
ハ分家ノ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相續人タルヘキ者ナキトキハ親
族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス

親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限り前二項ノ規定ニ拘ハラス
裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得(取三〇五)

本條ハ第二種ノ選定相續人ニ付テ規定セリ以上列舉シタル相續人皆有ラサルト
キハ死亡シタルトキ其相續權ヲ失ヒタルトキ又ハ拋棄ヲ爲シタルトキ廣く適當
ノ相續人ヲ選定セシムルノ外アルヘカラス然リト雖モ本條ニ於テハ尙ホ被相續
人ノ親族、家族、分家ノ戸主又ハ本家若クハ分家ノ家族中ニ適當ノ者アルトキハ先
ツ之ヲ選定スヘキモノトセリ而シテ是レ家系ヲ重スルノ趣意ニ出テタルモノニ
シテ略從來ノ慣習ニ適スルモノナリ

然リト雖モ右ニ掲ケタル者ナキカ又ハ之アルモ相續權ヲ失ヒ若クヘ拋棄ヲ爲シタルトキヘ勢ヒ他人ノ中ヨリ相續人ヲ選定スルニ非サレハ竟ニ絶家ノ不幸ヲ見ルニ至ルヘシ故ニ此場合ニ於テハ他人ノ中ヨリ選定スルモ可ナルモノトセリ尙ホ正當ノ事由アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ本條第一項ニ掲ケタル者アルニ拘ハラス他人ヲ選定スルコトヲ得ルモノトセリ是レ第九百八十三條ノ規定ト其精神ヲ一ニスルモノナリ

本條ノ選定ヲ爲スハ親族會ニ限レリ故ニ家ニ在ル父又ハ母カ前條ノ相續ヲ拋棄シ自ラ相續人ヲ選定スルコトヲ得ス况ヤ其者カ相續人タル資格ヲ失ヒタルトキヘ(九六九)固ヨリ相續人ノ選定ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ相續權ヲ奪ハレタル者ノ如キヘ固ヨリ適當ノ相續人ヲ選フノ望ナキ者ニシテ動モスレハ木偶ニ均シキ相續人ヲ定メ以テ自己ノ利慾ヲ恣ニセントスル者ナシトセス又其相續ヲ拋棄シタル場合ニ於テハ自ラ其家督ヲ相續スル價值ナキ者トスルニ拘ハラス他人ヲ選定シテ其者ニ相續ヲ爲サシメント謀ルハ頗ル其當ヲ得サルモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ親族會ノミナシテ相續人ノ選定ヲ爲サシムルコトトシタルナリ

本條ノ規定ニ依リテ選定シタル相續人ナキトキハ其家ヘ絶家スヘキモノトス(七六四)而シテ或ハ親族緣故者等ナク親族會ヲモ招集スルコト能ハサルコトアルヘク或ハ親族會カ適當ノ相續人ナシトシテ選定ヲ爲ササルトキ或ハ親族會ニ於テ選定シタル者カ皆相續ヲ拠棄シタルトキニ於テ絶家ノ場合ナ見ルヘシ尙ホ實際ニ於テハ相續人曠缺ノ手續ヲ踐ミタル後ニ非サレハ絶家ノ手續ヲ爲スコトヲ得サルヘシ(一〇五一乃至一〇五九)

第三節 家督相續ノ效力

第九百八十六條 家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戸主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前戸主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス(取二九四一項、三一一、舊商二七、十九年四月二十八日勅三

四號華族世襲財產法二)